

鈴鹿市・ベルフォンテン市

青少年相互交流事業

2025年7月30日～8月4日

受入れレポート

(公財) 鈴鹿国際交流協会

【7月30日(水)】

***鈴鹿到着**

12歳から16歳までの中高生7名と引率者4名、計11名が鈴鹿市に到着しました。猛暑の中、まずは京都を観光してから鈴鹿入りとなり、ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿のロータリーに、バスが到着しました。いよいよ、鈴鹿での生活がスタートします！



***ホストファミリーと面会 ⇒ ホームステイへ**

ロビーで待っていてくれたホストファミリーと対面し、写真を撮ったあと、すぐにそれぞれの家庭へ向かいました。

いよいよホームステイの始まりです！

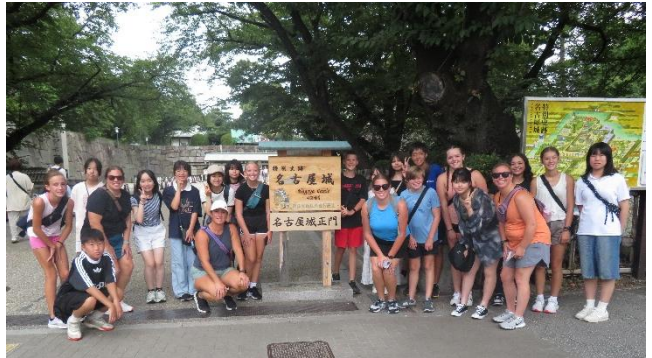




【7月31日(木)】

*名古屋城見学

猛暑の中、初日は、名古屋城を見学しました。本丸御殿の中はスポット扇風機のみで昔ながらの雰囲気味わえます。派遣生たちにとっては、英語の説明文を読み進めながら館内を巡り、異なる文化を学ぶ貴重な機会となりました。



*名古屋港水族館

ベルフォンテンには小規模な水族館しかないため、シャチやイルカといった大型の海洋生物やショーを楽しむことはできません。そのため、メンバーは名古屋港水族館での体験を大変喜んでいました。外は厳しい暑さでしたが、館内の涼しい環境で見学できたことで、とてもリラックスできたようです。





【8月1日(金)】

＊東海醸造見学

鈴鹿市で江戸時代から蔵を構え、天然醸造による味噌とたまり醤油を製造している東海醸造様の工場を見学しました。本来（現在）は蔵の見学は受け付けていないそうですが、友好都市からのお客様ということで、特別に短時間だけ許可していただきました。大変貴重な機会でした。



「みそ」は古来より日本人の健康を支える食品として親しまれ、大豆由来の豊富な栄養に発酵の力が加わり、現代でも研究が進む伝統的健康食です。東海醸造では今では珍しい「底引きたまり」も製造しています。豆味噌を熟成させ、桶底に自然にたまった濃厚な液汁を丁寧に汲み出す製法で、香り高く奥深い味わいが特徴です。効率重視の工業製法では得られない旨味を守り続け、伝統を大切にしながら製造しています。

* 亀山ローソクタウン

キャンドル作りワークショップ&工場見学

最初に取り組んだのはキャンドル作りで、色とりどり、形もさまざまなロウを自分で選んで組み合わせ、世界に一つだけのキャンドルを仕上げました。カラフルな素材を手にとるだけで気分が上がり、学生たちは思い思いのアイデアを形にしていく過程をとっても楽しんでいました。



完成した作品を見せ合うと自然と笑顔が広がり、可愛いキャンドルがたくさん出来上がりました。



その後、工場を短時間で見学し、ろうそくづくりの歴史や製造の一端に触れました。

普段は意識しない身近な製品にも多くの工夫や伝統が息づいていることを知り、学生たちにとって新たな発見となりました。



* Gravy Burger にて昼食



ベルフォンテンメンバーに感想を聞いたところ、アメリカのバーガーよりも美味しい！！と言った人も多く、大満足の様でした。ここでは、東海醸造のお醤油も使用されているようで、とてもタイムリーな訪問となりました。

* 白子中学校訪問（学生間交流）

同年代の学生と交流できるこのプログラムは、ベルフォンテンの学生たちが毎年楽しみにしている貴重な機会です。今回は白子中学校の英語サークルのみなさんが、日本の学校や夏祭りを紹介して下さい、さらに ALT の Kiyoko 先生が生徒の登校から部活動までの一日を収めた動画を制作してくださいました。ほぼ全校生徒が協力して作り上げたその映像のおかげで、ベルフォンテンの学生たちは日本の学校生活やアメリカとの違いを知ることができるだけでなく、流しそうめんや的あて、金魚すくいなどの夏祭り文化体験も楽しむことができ、とても楽しく、かつ有意義な時間となりました。



まずは白中のみなさんが自己紹介してくれました



次にベルフォンテンのメンバーが日本語で自己紹介をしました



校舎の見学。体育館の部活動の様子などを見ました



一般クラスの教室で、白中の生徒さんたちが英語のフリップを使い、クイズ形式で日本の学校について説明してくれました。ベルフォンテンの生徒にとっても、自国との違いがよく分かる、とてもわかりやすい方法でした。



クイズは早押しボタン形式で行われ、とても盛り上がりしました！正解すると記念品がもらえるため、ベルフォンテンのメンバーたちも競い合いながら答えており、教室は熱気に包まれていました。楽しみながら学べる、貴重で素晴らしい体験になったと思います。



金魚すくいならぬ、水ヨーヨーすくいに挑戦！！

流しそうめんの新バージョン！ビー玉で楽しもう！そうめんの代わりにビー玉を使ったユニークな体験です。⇒



射的体験⇒男子が夢中になってやっていました！





最後にみんなで記念撮影！！楽しかったネ♡

***議場見学**

議場では、席の説明や議会のルール、議員の選び方などを教えてもらいました。

議員が自分の席にある名前入りの黒い棒を立てると出席者数がわかる仕組みなども学び、とても興味深かったです。

その後は自由に席に座ったり写真を撮ったりして、議場の雰囲気を存分に味わいました。



↑歴代の市議会議長の写真が並んでいる廊下で SIFA 理事長の顔写真を発見！！



*市長・教育長 表敬訪問



市役所では職員の皆さんに拍手で迎えられ、庁議室に入りました。最初にベルフォンテンのメンバーが日本語で自己紹介を行い、名前・学校名・学年・得意なことを話しました。引率者 4 名も名前と職業を紹介しました。

代表のライアン氏は、過去の派遣生であり、今回で 5 度目の鈴鹿訪問でした。



メンバーの中には前市長の娘さんとお孫さん、商工会議所会頭の息子さん、さらに母親が元派遣生という生徒も 2 名おり、両市の交流の歴史と深い絆を感じるひとときでした。



続いて、ベルフォンテンのデイビッド市長からの親書が末松市長に手渡されました。鈴鹿市長のあいさつの後、派遣生によるプレゼンテーションが行われました。



プレゼンでは、オハイオ州発祥の発明や製品が紹介され、飛行機の発明、アメフト用ボールの開発、ダムダムキャンディーやエアストリームトレーラーの誕生など、興味深い内容が続きました。

また、オハイオ州のシンボルツリーや花、動物などをテーマにしたクイズもあり、最後

には州のロックソング（アメフトなどの応援歌）を歌と踊りで紹介し、会場を盛り上げました。その後はしばらくの談笑の後、記念撮影をして、表敬訪問は、お開きとなりました。



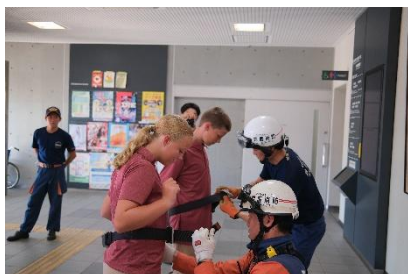
* 鈴鹿市消防本部見学



消防署では、まず消防署長のあいさつの後、職員の方から消防署の日常的な業務や出動の状況、活動内容などについて簡単な説明を受けました。

その後、3つの班に分かれ、はしご車の搭乗体験、消火活動の体験、そして消防車への同乗体験を行いました。

はしご車と消防車に乗る際には防火服を着用したため、真夏の強い日差しの中、とても暑かったですが、実際にサイレンを鳴らして敷地内を走行してくれたので、まるで本物の出動のようでとてもエキサイティングな瞬間でした。



一方、消火活動の体験では防火服は着ていなかったものの、実際の現場では重たい防火服を着た上で、水圧の強いホースをコントロールしながら作業を行うことの大変さを想像することができました。放水の勢いもすさまじく、操作の難しさを肌で感じることで、消防士の方々が日々どれほど厳しい環境の中で市民の安全を守っているかを改めて実感しました。



*インド村にて夕食

夕食は恒例の「インド村」でいただきました。

最近は辛い料理が苦手という生徒が年々増えている印象もありますが、全体的には高評価で、スパイスの香りや本格的な味を楽しんでいる様子が見られました。



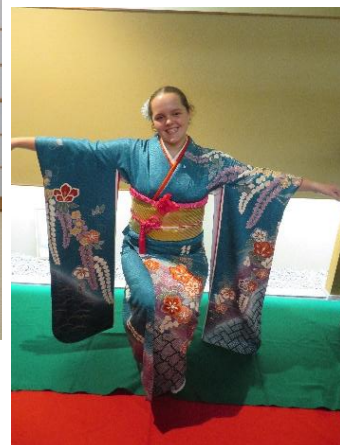
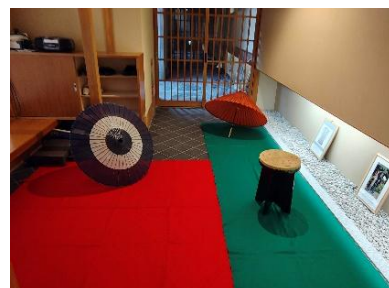
朝から分刻みのスケジュールでさまざまな場所を訪れたため、さぞ疲れているだろうと思いましたが、さすがは若者！皆、顔色も良く、笑顔で夕食のあとに予定されていた着物の試着体験も心待ちにしている様子でした。

*着物文化体験

この日の最後は、文化会館の和室で着物の試着体験を行いました。

華賀きもの学院のみなさまにご協力いただき、ベルフォンテンの生徒たちには着物を、ホストキッズには浴衣を着付けていただきました。

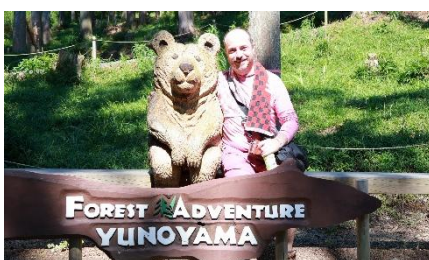
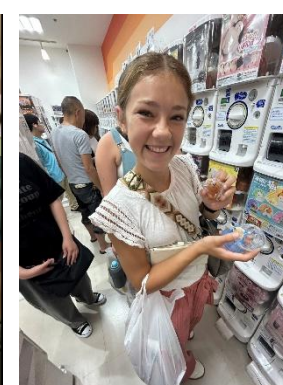
後日、アメリカの生徒たちを対象に行ったアンケートでは、「着物の試着体験が一番良かった」と答えた生徒が最も多く、皆、とても嬉しそうに、そして楽しそうに体験していたことがうかがえました。着物や浴衣に身を包んだ姿は本当に美しく、思わずため息が出るほどでした。

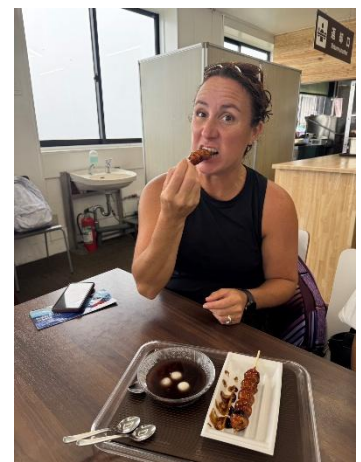




【8月2日(土)】ホストファミリーと過ごす日

ベルフォンテンメンバーが鈴鹿に滞在している間、ホストファミリーと丸一日一緒に過ごせるのは、この日だけでした。それぞれの家庭でさまざまな場所を訪れ、思い出に残る一日を過ごしたようです♪





【8月3日(日)】フェアウェルパーティ

ホストファミリーのみなさまへの感謝の気持ちを込め、そして訪問団との別れの時間を共に楽しむために、二部構成でフェアウェルパーティを開きました。

<第一部 @ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿 さつきプラザ>

はじめに、SIFA 理事長と鈴鹿市副市長によるあいさつが行われ、続いて末松市長からの親書が訪問団代表へ手渡されました。その後、派遣生7名が日本語で自己紹介をしました。

自己紹介の機会はこれまでもありましたが、ホストファミリーが彼らのあいさつを直接聞くのは、この日が初めてです。続いて、市長表敬訪問の際にも披露した「オハイオ紹介プレゼンテーション」を、ホストファミリーにもご覧いただきました。

次に、訪問団 11 名全員がホームステイの感想を発表しました。

それぞれがホストファミリーとの思い出を語り、会場は温かな雰囲気になりました。



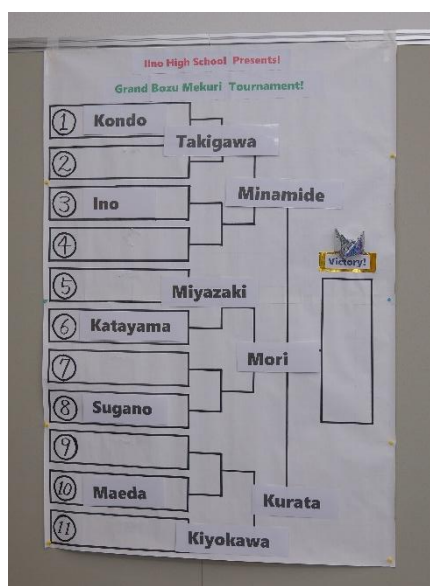
そしていよいよ、第一部のメインイベント「飯野高校プレゼンツ・大坊主めくり大会」がスタート！

11組のホストファミリーがトーナメント形式で競い合いました。

まず、飯野高校英語コミュニケーション科のみなさんが、百人一首の紹介に続いて坊主めくりのルールをわかりやすく説明。アメリカのメンバーだけでなく、日本の学生の中にも初めて挑戦する人が多く、会場はすぐに熱気に包まれました。歓声やため息が飛び交う中、試合は白熱し、ついに決勝戦へ！

優勝ファミリーと準優勝ファミリーには、SIFA と IFC から心ばかりの賞品が贈られました。

日本文化に親しみながら、笑顔あふれる楽しいひとときとなりました。





<第二部 @ブラジルレストラン MUGEN>

場所を移して、会場はブラジルレストラン「MUGEN」へ！

鈴鹿市はブラジル人が最も多く暮らす町です。そして、今回、ホストファミリーの中にもブラジル人のご家族がいらっしゃったことから、日本の皆さんにもブラジル文化を感じていただけるよう、このお店を会場に選びました。

食事はビュッフェスタイルで、サラダからメイン、デザートまで種類も豊富。

どれも彩りが美しく、異国情緒たっぷりの本格的な味わいに皆さんとても興味深そうでした。





おながを満たされたところで、次は音楽で楽しんでもらおうと、ライブステージがスタート！
最初に登場したのは WATAY。
フォルクローレの軽快なリズムが響き、観客も自然と手拍子を打ちながら一緒にリズムに参加。
会場全体が温かく一体感に包まれました。



続いて登場したのは、ケニア出身の Monicah' s Bounce。
アフリカンソングを中心に、日本の曲「Sukiyaki Song（上を向いて歩こう）」も披露し、その優しい歌声に会場中が聴き入りました。
Monicah は英語が話せるので、英語で直接、SIFA との関わりについてもお話してくださいました♪



会場は、音楽を通じて笑顔が広がり、まさに国際交流の喜びを感じるひとときとなりました。
笑顔と拍手に包まれながら、最後は代表のライアン氏がお礼のあいさつをして、フェアウェルパーティ
は盛況のうちに幕を閉じました。



あとはいよいよ最後の夜を残すのみ——
心に残る、あたたかいひとときでした。



【8月4日(月)】 出立の朝

いよいよお別れの朝。

互いにハグを交わし、笑顔と少しの涙の中で、一行はたくさんの楽しい思い出を胸に旅立っていきました。ベルフォンテンメンバーにとっても、ホストファミリーにとっても、確かに心に残る、かけがえのない6日間となりました。



終わりに

鈴鹿市・ベルフォンテン市青少年相互交流事業では、これまで長きにわたり、両市の若者たちが海外でのホームステイを通じて異文化に触れ、多くの出会いと学びを重ねてきました。

このプログラムでは、公式日程のうち1日は楽しい “Fun イベント”、もう1日は市内視察や文化交流を行うのが両市共、恒例となっています。

ただ、年々厳しさを増す夏の暑さの中で、屋外の観光コースを企画するのは容易ではありません。

今回は、参加者の安全と快適さを第一に考え、さらにベルフォンテンにはない大規模な水族館という点にも注目し、名古屋港水族館を訪問先のひとつに選びました。

屋内で過ごせる環境の中で、海の生き物や展示を通じて楽しく学べる時間となり、参加者からも笑顔があふれる一日となりました。

その分、2日目の公式プログラムでは、鈴鹿市を中心に、学習的な要素や文化体験、人的交流を盛り込み、内容の濃い一日となりました。

特にフェアウェルパーティでは、飯野高校の生徒さんたちと一緒に行った「大坊主めぐり大会」が大変好評で、日本文化に親しみながら大いに盛り上がる、新たな試みとなりました。

鈴鹿で過ごした6日間は、ベルフォンテンのみなさんの心に忘れられない思い出として残り、今回築かれたご縁がこれからも続いていくことを願っています。

それこそが、鈴鹿市とベルフォンテン市を結ぶ深い絆の証であり、この事業の原点でもあります。

忘れ得ぬ、熱い夏の6日間でした。

(担当 : Chico Nakano)